

地球温暖化対策実施状況報告書

2019年 7月 16日

（報告先）
横浜市長

住所 東京都大田区新蒲田1丁目7番4号

氏名 株式会社東横イン
代表執行役社長 黒田 麻衣子

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	株式会社東横イン 代表執行役社長 黒田麻衣子（旧 代表執行役 黒田麻衣子）				
事業者の主たる 事業所の所在地	東京都大田区新蒲田1丁目7番4号				
主たる事業の業種	大分類	M 宿泊業、飲食サービス業			
	中分類	75 宿泊業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	1,469	kl	自動車の台数	台

2 計画期間及び実施年度

計 画 期 間	2016	年度	～	2018	年度	実 施 年 度	2018	年度
---------	------	----	---	------	----	---------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針]</p> <p>○東横インは地球温暖化防止対策を積極的に行い、企業の社会的責任を果たす。</p> <p>○ビジネスホテルのエネルギー消費量は宿泊されるお客様の人数や、お客様のご使用方法に左右されることが多いが、運用のソフト面とハード面を駆使し、お客様のご理解のもとエネルギー消費の削減、そしてCO2排出の抑制を図る。</p> <p>○エネルギー消費量を21年度を基準として、原単位で年1%削減する目標を設定し、全体的な取り込みを行う。</p> <p>○設備機器の更新時に高効率機器を積極的に採用し、省エネを図りCO2排出量の削減を図る。</p> <p>○設備投資としては、段階的にロビー、廊下及び客室内照明をLED化照明に変更して行く。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討]</p> <p>①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 照明設備について白熱灯、蛍光灯をLEDに順次変更して行く。 能力の低下したエアコンを順次省エネ型に取り換える。</p> <p>②上記①の設備を選択した理由</p>

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	3,974	t-CO ₂			基準原単位	7.98	t-CO ₂ /稼働千室
	調整後	3,897	t-CO ₂			目標原単位	7.90	t-CO ₂ /稼働千室
目標年度 (2018年度)	目標排出量	4,015	t-CO ₂	削減率	▲ 1.0 %		削減率	1.0 %
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	<p>客室稼働がエネルギー消費量に影響するため、稼働と連動して総排出量も増加する。そのため、稼働室数1000室単位を原単位とした原単位を採用。</p> <p>21年度を基準として、排出量は19.3%増加していますが、原単位では9.2%削減されています。21年度より原単位で年1%の削減目標を大きく上回る結果と成りました。この状況より、21年度を基準として原単位で年1%の削減目標を継続し、30年度までに9.0%以上の削減を目標とする。また、28年度から30年度までに原単位で1%以上削減できるように努力する。</p> <p>① 運営面での削減対策案の継続的な取り組みを行う。 ② 設備機器の更新時に高効率、省エネ機器を採用する。 ③ 共用部及び客室内照明をLED照明、蛍光灯をLEDに順次変更して行く。</p>							
事業者全体としての目標等	<p>エネルギー消費量を21年度を基準として原単位で年1%削減する目標を継続設定する。特に照明設備のLED化を順次進め、排出量の削減を図る。</p>							
第一年度 (2016年度)	排出量	3,825	t-CO ₂	削減率	3.7 %	排出原単位	8.05	t-CO ₂ /稼働千室
	調整後	3,554	t-CO ₂	削減率	8.8 %		削減率	▲ 0.9 %
目標等の達成状況及び説明	<p>基準排出量より3.7%の削減、原単位については0.9%の増加と成りました。原単位については、稼働客室数の減少が主な要因と思います。今後の対策として、稼働率を上げること、照明器具のLED化及び省エネエアコンへの交換を今まで以上に対応を進める。</p>							
第二年度 (2017年度)	排出量	3,539	t-CO ₂	削減率	10.9 %	排出原単位	7.60	t-CO ₂ /稼働千室
	調整後	3,418	t-CO ₂	削減率	12.3 %		削減率	4.8 %
目標等の達成状況及び説明	<p>今年度は基準年度と比べ、総排出量及び原単位においても、かなりの削減となりました。主な要因としては、ロビー及び客室の照明及びランプをLEDに交換した。客室エアコンを省エネタイプエアコンに取り換えたのが起因したと思います。</p>							
第三年度 (2018年度)	排出量	3,540	t-CO ₂	削減率	10.9 %	排出原単位	7.30	t-CO ₂ /稼働千室数
	調整後	3,533	t-CO ₂	削減率	9.3 %		削減率	8.5 %
目標等の達成状況及び説明	<p>今年度は、基準年度及び昨年度と比較しても原単位では、かなりの削減と成っています。主な要因は、昨年度に照明をLEDに既設エアコンを取替えた効果が出てきた結果だと思えます。</p>							
計画期間全体の排出状況に関する説明	<p>共用部及び客室の照明をLEDに取り換えたこと、客室内のエアコンを順次、省エネタイプに取り換えたことが、大きな要因で削減出来たと思えます。又、ホテルの従業員が省エネ意識を持ってソフト面に対応した結果だと思えます。</p>							

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 （年度）	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂				t-CO ₂ /	
目標年度 （年度）	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方								
事業者全体としての目標等								
第一年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第二年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第三年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
計画期間全体の排出状況に関する説明								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
500k1以上 1,500k1未満								
500k1未満	9	3,974	9	3,825	9	3,539	9	3,540
合計	9	3,974	9	3,825	9	3,539	9	3,540

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度								
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	9/9	—	年度		22年8月体制整備、運用開始	実施済	9/9	—	年度			実施済	9/9	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施中	2/9	—	2017年度		客室エアコンを省エネ型に取替え	実施中	2/9	—	2019年度		客室エアコンを省エネ型に取替えが、予定より進まなかった為	実施中	8/9	—	2019年度		1店舗 次年度予定
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	9/9	—	年度		9店舗	実施済	9/9	—	年度			実施済	9/9	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	9/9	—	年度		監理標準作成(9店舗) 23年度より実施	実施済	9/9	—	年度			実施済	9/9	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為		非該当	/	—	年度	原油換算値500k1未満の為	
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	9/9	—	年度		監理標準作成(9店舗) 23年度より実施	実施済	9/9	—	年度			実施済	9/9	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為		非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為		非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為	
	13	照明設備の高効率化	事業所	実施中	3/9	—	2018年度		客室蛍光灯を随時LED取替えロビー照明をLED化	実施中	3/9	—	2019年度		客室蛍光灯を随時LED取替えが、予定より進まなかった為	実施済	9/9	—	年度		9店舗完了
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	9/9	—	年度		監理標準作成(9店舗) 23年度より実施	実施済	9/9	—	年度			実施済	9/9	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	18	排出ガス温度の管理	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし		非該当	/	—	年度	該当設備なし	

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度									
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況		
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度	
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度	
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度	
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度	
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度	

10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

- （注意事項） ・ 対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。
 ・ 燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。
 ・ 記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者総排出量 (t-CO2)		CO2排出量合計① (t-CO2)		CO2排出量合計② (t-CO2)		削減量合計 (t-CO2)					
		0.22 %		3,540		52.3		44.7		8					
連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
1	性能低下による客室エアコン 取り換え	横浜鶴見 駅東口	2018	性能低下及び故障が多くなって きた 178台予定	昼間買電	49,480	k Wh	25.3	性能低下及び故障が多くなって きた 178台予定	昼間買電	41,830	k Wh	21.4	7.7	10,680 千円
					夜間買電	52,700	k Wh	27.0		夜間買電	45,390	k Wh	23.2		
					昼間買電		k Wh	0.0		昼間買電		k Wh	0.0	0.0	千円
					夜間買電		k Wh	0.0		夜間買電		k Wh	0.0		
														千円	
														千円	
														千円	

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1		年度		
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	7	東京電力エナジーパートナー/J-Power
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	○連泊プランとして、連泊されるお客様のリネン類の交換及びアメニティグッズの補充を省略させて頂き、環境負荷の低減及び廃棄物の削減を図る。 ○共用部、客室照明のLED化を図る。
計画期間内に実施する対策	○劣化したボイラー交換により効率上げ灯油の使用量の削減を図る。 ○共用部、客室照明のLED化を図る。
第一年度実績	○連泊プランとして、連泊されるお客様のリネン類の交換及びアメニティグッズの補充を省略させて頂き、環境負荷の低減及び廃棄物の削減を図る。
第二年度実績	○連泊プランとして、連泊されるお客様のリネン類の交換及びアメニティグッズの補充を省略させて頂き、環境負荷の低減及び廃棄物の削減を図る。 ○エアコンの温度設定をリモコンに表示し、お客様に協力をお願いしている。
第三年度実績	○連泊プランとして、連泊されるお客様のリネン類の交換及びアメニティグッズの補充を省略させて頂き、環境負荷の低減及び廃棄物の削減を図る。 ○エアコンの温度設定をリモコンに表示し、お客様に協力をお願いしている。

14 実施状況等に対する自己評価

○共用部及び客室照明のLED化を図った。
○機能の低下したエアコンを省エネ型エアコンに取り換えた。
○客室内のスリッパについて、使い捨てせず洗って再利用をしている。
○朝食時は使い捨て割り箸でなく、樹脂製の箸を採用し、再利用を図っている。